

講師らは評価・IR 業務を、その「目的」と「対処」の観点から整理する四象限の枠組みを考案しました。これを用いて、参加者の大学の評価（若しくは IR）の様々な業務を「説明責任のための通常業務」、「説明責任のための臨時業務」、「改善支援のための通常業務」、「改善支援のための臨時業務」に整理しました。さらに、学外への説明責任のために作成したデータを、どのようにして意思決定や学内の改善支援に転換させていくかを、参加者とともに考えました。

1. 日時・場所

平成27年8月28日（金）9：30－16：00

神戸大学 六甲台第二キャンパス（神戸市灘区六甲台町1-1）

神戸大学留学生センター 102 教室（分科会：地図の57番）

六甲台第二：<http://www.kobe-u.ac.jp/guid/access/rokko/rokkodai-dai2.html>

2. 出席者

15名参加（うち2名がスタッフ）

- ・属性などについては、別紙をご覧ください。

3. タイムテーブル

第一部 9：30～12：00

9:30－9:50 アイスブレイク

- ・講師陣の自己紹介に加え、参加者の自己紹介及び従事している業務、本セッションの参加動機等を伺うアイスブレイク（一人当たり2分程度）を行いました。

9:50－10:00 趣旨説明及び進め方

- ・本セッションの進め方について説明させていただきました。

10:00－10:20 第一部： 講義「四象限分析について」

- ・資料2を用いて、講義させていただきました。

10:20－11:10 第一部： 演習「業務の四象限分析」

- ・まず、ステップⅠとして、所属組織において評価・IR 部署が展開している業務を、附箋に記入にして、リストアップしていただきました。
- ・次に、ステップⅡとして、附箋にリストアップした業務を、それぞれ四象限（資料3。A3版で印刷を推奨）にプロットしていただきました。
- ・そして、ステップⅢとして、プロットした象限ごとの業務が全体に対して、どれぐらいの比率を占めるかを書き込んでいただきました。

11:10－11:50 第一部：演習結果の発表と質疑応答

- ・各自作成いただいたプロット表を講師が指名する3名に発表（一人当たり5分程度）していただき、質疑応答を行いました。

11:50-12:00 第一部の総括

- ・ステップⅠ～Ⅲを総括し、四象限分析をすることで、どのようなことが可能になるのかについて、お話しさせていただきました。

[12:00-13:00 昼食休憩]

第二部 12:00~16:00

13:00-13:25 第二部：講義「意思決定を捉えるための枠組みについて」

- ・資料2を用いて、講義させていただきました。

13:25-14:30 第二部：演習「ゴミ箱モデルを用いた意思決定・改善支援の分析」

- ・第一部の四象限分析に係る演習から得られる分類結果を基に、意思決定・改善支援につながりやすい事例、つながりにくい事例を選定させていただきました。
- ・そのうえで、意思決定・改善支援につながっている事例、つながっていない事例を、それぞれゴミ箱モデルの4つの要素（事前配布の資料4）に分解していただきました。

[14:30-14:45 休憩]

14:45-15:45 第二部：演習結果の発表と質疑応答

- ・第二部の演習で各自作成いただいた分析結果について、意思決定・改善支援につながっている事例、つながっていない事例を講師が指名する4名に発表（一人当たり5分程度）していただき、質疑応答を行いました。

15:45-16:00 全体総括

- ・意思決定・改善支援を推進するうえで、IR担当者として何ができるかを、ゴミ箱モデルの四つの要素に沿って分析いただいた結果を参照しながら総括しました。

4. 配付資料

資料1 実施要項（本紙）

資料2 講義資料

資料3 演習1の作業様式

資料4 演習2の作業様式

資料5 参加者名簿

5. スタッフ

浅野 茂（山形大学 学術研究院（企画部） 教授）

山本幸一（明治大学 教学企画部 評価情報事務室 副参事）